

2022 年度
ミス・パリ エステティック 専門学校
名古屋校

自己評価報告

2023 年 4 月

学校法人ミスパリ学園
ミス・パリ エステティック 専門学校
名古屋校

2022年度 自己評価について

学校法人ミスパリ学園が運営するミス・パリ エステティック専門学校名古屋校は、愛知県名古屋市東区に2008年4月に開校しました。同時期に姉妹校であるミス・パリ エステティック専門学校（大阪府北区）も開校しております。

本校の前身となるミスパリエステティックスクールは、1990年にエステティックに関する教育を本格的に開始し、常に先進的な理論と技術を教授し、その授業時間も300時間、1,000時間と増やすことにより、カリキュラムを充実させてきました。

専修学校として再スタートをする際には、全国でもあまり類を見ない2年間で2,085時間という非常にハイレベルのカリキュラムを編成し、即戦力人材の育成に注力し、有為な人材を関係業界だけでなく他分野にも多数輩出してまいりました。

これからも本校の教育理念である「美しく聡明で品格あるプロフェッショナルの育成」を基本とし、教育内容の更なる充実を図り、日本のみならず世界で活躍できる人材育成に向け、教職員一同努力してまいります。

以下にあるとおり2022年度の自己評価の取り組み状況をご報告いたします。

自己評価の目的は、本校に関する各項目を教職員が客観的に評価することにより、改善点を見出し、更に実践的な教育プログラムを充実させることにより、学生はもとより教職員の質の向上に資するものです。

学生が卒業後も活躍できる環境の醸成に向け、今後も引き続き、企業や業界団体の皆様のご理解、ご支援を賜りたいと存じます。

1. 評価実施期間

2022年4月1日～2023年3月31日

2. 実施方法

(1)校長以下、課長、教育課が中心となり、各教職員が連携して評価を行う。

(2)評価は「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考にしている。

- (3)評価は、年度終了後速やかに行い、年1回行うこととしている。
- (4)評価は講師研修会にて各職員に評価表を配布、各項目の内容、前年度の具体的な取り組みについて解説をしながら評価を行った。
- (5)評価結果は、学校関係者評価委員に報告するとともに、現状と今後の改善、解決に向けた取り組み等を公表することとする。

3. 自己評価の項目

- (1)教育理念・目標 (2)学校運営 (3)教育活動 (4)学修成果
- (5)学生支援 (6)教育環境 (7)学生の受入募集 (8)財務
- (9)法令等の遵守 (10)社会貢献・地域貢献

4. 評価項目に対する評価 (5段階とする)

- 5：良好 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

以上

2022年度 ミス・パリ エステティック専門学校名古屋校 自己評価表

1. 学校の教育目標

本校の教育理念「美しく聡明で品格あるプロフェッショナルの育成」を念頭に、学校法人ミスパリ学園としての自覚と自負の下、「充実した教育課程」「学生獲得」「就職確保」の3本柱を全教職員の力で全うし、わが国トップクラスのトータルビューティの専門学校を目指す。

2. 本年度に定めていた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- 1) 担任、学生募集、ご家族、高校との連携を密にする。
- 2) 気づき、問題点に対して、行動を素早く対応できる講師を目指す。
- 3) 教職員の研修を実施。
- 4) 業務の明確化、見える化。
- 5) 職業実践における教育レベルの統一化。

3. 自己評価

5：良好 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

(1) 教育理念・目標

	評価項目	評価	前年
1	学校のビジョン及びそれを実現するための方針を策定しており、かつ、教職員に理解されているか。	5	5
2	特色ある学校づくりを進めるために、求められる仕事及び求められる人間性を明確にし、学校独自のカラーを出しているか。	5	5
3	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが、学生や保護者等に周知されているか。	4	5
4	目標に対する評価を年度内に実施し、その結果を教職員に周知するとともに、次年度の目標につなげているか。	5	5
5	教育目標、育成人材は学科等に対する社会のニーズに向けて方向付けられているか。	5	5

取り組み

- ・教育課程編成委員会での企業からの意見などを講師研修会にて全員に周知することで内容の共有を行っている。
- ・企業からの意見をもとに、具体的な指導方法、伝達方法などを話し合い、指導方法の改善等の検討を行っている。
- ・保護者アンケートを年間2回実施し、学校の取り組みの周知や、ご家族様のニーズを把握するようになっている。
- ・学年毎に年間目標を設定し、2か月に1度の振り返り、学年ミーティングを実施している。

課題

- ・学生が卒業時までには育成人材像を理解し、個々に目標をもって授業に取り組めるための学生、教職員の関係づくりと指導方法の改善。
- ・各計画表を有効活用し、教職員の個人目標、学年目標を達成させる。また、ミーティング内容を教職員全体に共有できるシステムの構築。
- ・保護者会アンケート結果の共有と改善のための具体的施策の策定。
- ・各学年で話し合った内容は記録し、いつでも閲覧できる状況になっているが、共有が不十分なため、共有方法を改善する。

今後の改善策

- ・教職員全員が「ミスパリ基準」を意識し、社会で活躍できる人材に導くことを念頭におき、指導することが重要である。また、学生が「やってみよう」と感じることが出来る声掛けを工夫し、学園で定める育成人材像に沿った教育を行い、達成させること。
- ・学生が卒業する時まで、教育理念、育成人材像を念頭に置き、学び続けられるよう教職員全員が伝え続けること。
- ・「個人目標計画表」、「学年目標・計画表」をもとに2か月に1度の振り返りに加え、適宜学年ミーティングを実施すること。また、月に1回の職員会議を全教職員で実施することで、教員、募集担当の業務内容の共有を図ること。
- ・保護者アンケートの集計結果を職員会議の場で共有し、ご家族様の期待、要望を教職員全体で把握すること。

(2) 学校運営

	評価項目	評価	前年
1	事業計画等に沿った運営方針が策定されているか。	5	5
2	学校運営などに学生の意見が反映されているか。	5	5

3	地域社会への貢献の一環として、学校施設を地元に開放しているか。	4	4
4	地域との協力関係が確立されているか。	5	5
5	運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されていて、有効に機能しているか。	4	5
6	人事・給与等に関する規程等は整備されているか。	5	5
7	教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか。	5	5
8	教職員の健康診断を実施しているか。	5	4
9	各種システム化等により業務の効率化が図られているか。	4	4
10	ホームページは、適宜更新し、見やすくしているか。	5	5
11	学校評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知するとともに、改善計画を策定しているか。	5	5
12	学校運営及び評価の結果を学校関係者以外に、何らかの方法で公表しているか。	5	5

取り組み

- ・本校の教育活動に対する理解を得るため、ご家族様アンケートに「年間行事がわかるような資料が欲しい」という意見もあがることから、ご家族様向けに年間行事等の資料配布。
- ・学生が参加する学校行事に対しては学生実行委員を決め、講師とともにミーティングに参加することで学生の意見も反映できるよう運営している。
- ・感染防止対策のため、ボランティアの受け入れが困難なところもあったことから、あらたな地域貢献の一環として、マラソンボランティアを学生と教職員ともに参加した。
- ・学校運営について教職員全員の認識を深めるため、講師研修を活用し目標の評価、改善策の検討を行っている。

課題

- ・教職員全体で学校運営についての認識を継続的に深める取り組みを工夫する。
- ・講師研修に全教職員が参加し、募集担当と教員の意思統一を図る。
- ・地域との関わりや取り組み方を検討し、ボランティア活動の機会と参加者数を増やすことや、エステティックマスター学科による福祉施設のボランティアの実施の再開。

今後の改善策

- ・地域のボランティア活動に参加する機会を増やし、学生が就職するときには社会貢献に対する意識を持ち、行動できるよう教育をすること。

(3) 教育活動

	評価項目	評価	前年
1	教育課程は、教育理念・教育目標と一貫性がある内容になっているか。	5	5
2	定期的に教育課程の評価を組織的に行い、時代の要請、変化にあったものに修正しているか。	5	5
3	シラバス（授業計画書）は、学生が授業内容を理解しやすく、授業内容と一致しているか。	5	5
4	効果的な授業運営を図るため、適切に時間割を調整しているか。	5	5
5	授業内容や指導方法が学生レベルに合うよう工夫・改善しているか。	4	5
6	学生に修了認定のための評価基準と方法を公表しており、かつ、評価は公平性・妥当性が保たれているか。	5	5
7	評価結果による教員面接・指導が行われているか。	5	5
8	未修了科目の原因分析を教員側と学生側とで実施し、対応策を講じているか。	5	5
9	資格対策に個々の学生にあった指導・援助を実施するなど、教職員一丸となって取り組んでいるか。	5	5
10	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	4	5
11	教職員のスキルアップのための研修を行っているか。	4	5
12	研修や出張で学会等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みがあるか。	5	5

13	教職員の授業を他の教職員、または外部関係者が参観、講評できる制度があるか。	4	5
14	教職員による自己評価が定期的に行われているか。	5	5
15	インターンシップ等を利用して、職業選択について深く考える契機を提供出来ているか。	5	5
16	関連分野の企業・関係施設や業界団体等との連携によりカリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	5	5

取り組み

- ・月に1回の学年ミーティングを行い「学年目標・計画表」の進捗を確認し、学生の学習状況に合わせ、年間目標や2か月間の短期目標を適宜更新している。
- ・全教員が各技術の指導ポイントをディスカッションする研修を実施し、学生への伝達方法の統一、指導時の工夫を行っている。
- ・各単元の修了チェックと総評、手直しまでを授業時間内に行えるようスケジュールを調整し、未修了科目に対する対策を行っている。

課題

- ・学年ミーティングの内容や学生への指導内容を全教職員が共通認識を持つための情報提供、共有が必要。
- ・講師研修で研修評価を明確にする。
- ・授業単元毎の到達目標を明確にし、学生の学習意欲を高める声掛けを毎授業実施する。
- ・講師研修等で職員の指導力を強化し、クラス内での学習理解度の差を少なくするため授業進行等の検討を適宜行う。
- ・授業アンケートの学生意見をもとに教職員の授業方法を改善する。職員の指導力を向上させる研修を計画、実施する。
- ・学生が視野を広く持ち行動できる「気づける人」になるための指導を行うため、教職員一人ひとりの感性を磨く。

今後の改善策

- ・教職員の指導力強化のため、研修評価担当者を決め、講師の理解度、習得度合などの達成状況を明確に評価すること。
- ・各単元の初回授業時に授業回数、到達目標を学生に説明することで、各科目の目標を学生自身が把握し学修の成果向上を目指すこと。
- ・サロンで働くことをイメージし、自身の使用スペースのみでなく共有スペースにまで視野を広げ、環境を整えるなど、美意識を高める指導を工夫すること。

- ・学生自身がお客様のために自ら考えて行動できるよう、技術や接客行動の意味を説明することで理解を深め判断力を向上させる教育を行うこと。
- ・引き続き、月に1回の学年ミーティングを行い、前年度の結果を基に今年度の学生に合わせた指導方針・方法を決定すること。
- ・引き続き、年2回実施する授業アンケート結果を基に、指導方法の標準化、指導力の向上に向け、教職員面談を徹底すること。
- ・講師研修で授業担当者が全職員に向け理論授業を行う研修を行い、理論の授業方法を改善すること。
- ・学生の授業に対する満足度を上げるため、教職員に対して「教育に関するアンケート」を実施し教員が持つ学生指導に関する悩みを共有できる研修を実施すること。

(4) 学修成果

	評価項目	評価	前年
1	学生の就職に関する目標を設定したか。またその成果は十分か。	5	5
2	学生の資格取得目標を設定し、その結果検証をおこなっているか。	4	5
3	中途退学者を少なくする工夫・努力をしているか。	4	5
4	卒業生の就職先での評価を把握し、問題点を明確にしているとともに、その改善策を講じているか。	5	5

取り組み

- ・就職については、専任の就職担当者を中心に担任と連携し、学生をサポートしたことで、就職内定率100%を達成している。
- ・講師研修で企業の方から活躍している卒業生の良い点などを情報提供していただくことで企業が求める人材像を明確にしている。
- ・新システムに個別の学生情報を適宜更新し、学生の対応方法や状況を職員全員が共有し、学生個々の対応を行っている。

課題

- ・学生が学習のモチベーションを維持、向上できるような関わりを持ち、進級率、資格試験の受験率、合格率を上げる。
- ・学生が社会に出るための心構えをつけさせ、内定辞退、就職後の早期離職を防ぐ。
- ・技術習得において、学生が技術の要点を理解し、正しい技術が行えていることや、技術効果を実感できる授業の工夫をする。

- ・中途退学の減少を目指し、学生個々の状況に合わせた対応を検討する。

今後の改善策

- ・学生が学習のモチベーションを維持、向上できるよう毎日の授業において到達目標を設定し、授業内に目標達成できたことをほめることで、進級率の回復、資格試験の受験率、合格率を上げる。
- ・各資格試験の日程に合わせた段階的な授業進捗と模擬試験を計画的に実施し、合格率のアップにつなげる。また、技術の要点を理解できるような指導方法を工夫すること。
- ・昨年実施した「放課後質問会」は授業に遅れていると感じる学生をサポートする機会となっていたため、引き続き実施し、中途退学者減少につなげる。
- ・学年ミーティングで検討した内容について、職員会議を活用し、全教職員に共有すること。
- ・学生の変化を全教職員が注視し迅速に対応するために、各クラスの出席表を常に掲示し、学生の出席状況を全教職員が把握できるようにすること。

5) 学生支援

	評価項目	評価	前年
1	学生の心身面での健康管理体制が整っているか。	4	4
2	学生生活、進学、就職に関して学生の相談に十分応じているか。	5	5
3	学生のサークル活動やボランティア活動などの自主活動を支援しているか。	5	5
4	災害など非常時の危機管理体制が整っているか。	5	5
5	奨学金等の経済的支援があるか。	5	5
6	学費減免、学費分納制度があるか。	5	5
7	学生寮を保有しているか。	5	5
8	卒業生への再教育、または就職支援体制はあるか。	5	5
9	社会人のニーズを踏まえた教育環境は整備されているか。	5	5

取り組み

- ・学生面談を1年生は年間4回(4月、5月、7月、12月)実施、2年生は年間2回(4月、10月)の実施に加え学生の精神・健康状態に応じ、適宜個別面談を行っている。

- ・奨学金担当者より学生の利用状況を確認し、学習を継続させるための経済的支援を受けられる環境づくりを行っている。

課題

- ・学生の状況をより把握し、退学者を減らすため面談時期、回数の再検討。
- ・精神的、社会的に様々な問題を抱える学生へのサポート体制の構築。
- ・入学時から2年間の学費を見越した、アドバイスやサポートを行い、金銭的に困難な学生へのフォローを行うため、講師研修にて奨学金についての理解など、学生の生活環境、学習環境を踏まえた研修を実施し、全教職員が把握したうえで学生サポートを行う。

今後の改善策

- ・1年生の面談日を学生のモチベーションが下がりやすくなる9月に1回増やし、学生の状況の把握、学習のフォロー、目標設定をすることで退学者を減らす取り組みを行うこと。
- ・卒業後に社会人となるための心構えと自覚を持たせるため、学則に準じた規律ある行動がとれるよう全教職員が一貫した態度で学生指導にあたること。
- ・学生指導記録を導入。個々に指導した内容を共有し、指導内容が改善されているかを教職員の誰でも確認ができ、学生の状況に応じた指導ができるように連携を図ること。
- ・学生が抱える悩みの状況によって外部機関との連携を強化すること。

(6) 教育環境

	評価項目	評価	前年
1	教育目標達成に必要な施設、設備及び新しい教材が整っており、活用されているか。	5	5
2	学生のために、休息、親睦及び交流等を行うためのスペースが設けられているか。	4	5
3	防災に対する体制は整備されているか。	5	5
4	学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか。	5	5

取り組み

- ・年間2回、校舎修繕計画を立て、効率的に修繕を行っている。
- ・年度末の大規模な施設・設備点検を行っている。
- ・学期末に授業で使用する備品の点検、補充を行っている。

- ・クラス毎に休憩するフロアーを分けることで、学生の休憩スペースの確保、新型コロナウイルス感染症予防対策を行っている。

課題

- ・機器の使用前点検ができていないことがあるため、機器点検について確実に実施できる方法を検討し使用前点検を徹底する。
- ・学生が休憩、くつろぐ場所の確保を行う。

今後の改善策

- ・機器の使用前点検について、実施、点検記録の記載を講師研修後に行うことで、確実な実施ができるようにすること。
- ・7階、4階のエントランスに談話スペースをつくること。

(7) 学生の受入募集

	評価項目	評価	前年
1	学生募集計画があるか。また成果は十分か。	5	5
2	学校案内等には育成人材像が明示されているか。	5	5
3	学校案内等には目指す資格・検定試験等が明示されているか。	5	5
4	学校案内等には学費・教材費が明示されているか。	5	5
5	入学（予定）者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーションは行われているか。	5	5

取り組み

- ・新型コロナウイルス感染症防止対策の一環として、オンラインオープンキャンパスを導入している。
- ・全教職員に募集計画を理解してもらう取り組みとして、職員室内に進捗表を掲示している。
- ・教職員に対するカウンセリング研修を年間2回実施している。

課題

- ・カウンセリング力の向上のための研修を継続実施。

今後の改善策

- ・引き続きオープンキャンパスではオンラインと来校型の2種類の形態で実施し、学校の魅力や特徴が伝わるような内容を構築し、遠方からの入学者の増加につなげること。

- ・学生の募集計画を全職員が理解できるよう職員研修を全職員参加とし、共有する機会を増やす。また、募集担当と教員と一緒に進路相談に入りカウンセリングの底上げをすること。
- ・入学前のカウンセリングで、エステティックマスター学科や専門職大学の説明を行い、学習意欲を高めていく。また、専門職大学との合同オープンキャンパスを行うことで、ミスパリ学園の教育方針など、より多くの高校生に興味をもってもらえる機会をつくること。

(8) 財務

	評価項目	評価	前年
1	予算計画、年間事業計画を策定し、適正な予算の執行・進捗管理を行っているか。	5	5
2	財務について会計監査が適正に行われているか。	5	5
3	財務情報公開の体制整備はできているか。	5	5
<p>取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財務管理に関する現状の取り組みについて、監事より高評価を受けている。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員のコスト削減に対する意識を高める。 <p>今後の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より緻密な営繕計画を策定すること。 			

(9) 法令等の遵守

	評価項目	評価	前年
1	法令や専修学校設置基準を遵守しているか。	5	5
2	学生指導において、学生に対して人権への配慮がされているか。	5	5
3	学生、非常勤講師や教職員の個人情報の保護について、考慮しているか。	5	5
4	自己点検・自己評価を定期的実施し、問題点の改善につとめているか。	5	5
5	自己評価結果を外部に対して公表しているか。	5	5

取り組み

- ・該当する全教職員を対象に自己評価結果のフィードバックを行い、問題点、課題の共有を行った。
- ・学生を対象とした SNS 使用に対する注意喚起や、正しい使用方法について、ホームルーム等の時間での周知や、事故が起りやすい長期休暇前に注意喚起を行っている。

課題

- ・引き続き職員全員が法令等の遵守を意識して行動できるようにする。

今後の改善策

- ・現代において使用禁止されている言葉など、常に新しい情報を収集し学生の人権に配慮した対応を行うこと。

(10) 社会貢献・地域貢献

	評価項目	評価	前年
1	学校の実習施設を活用するなど高等学校の職業教育の実施に協力・支援しているか。	5	5
2	環境問題など重要な社会問題の解決に貢献するための活動を行っているか。	4	4
3	受け入れ、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか。	5	5
4	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか。	4	5

取り組み

- ・ごみ分別に対する注意喚起を行い、学生が自主的な行動ができるように掃除の際にごみの分別を学生とともにしている。
- ・ミスパリ祭のバザー売上金3年分を「日本赤十字社」に寄付し表彰された。

課題

- ・万全な感染防止策を講じながら新たな地域貢献の実施を検討する。
- ・バザーなどの収益を寄付することは学生に伝達できているが、その行為が社会貢献につながっているところまでの説明をすることで、学生に社会貢献をしている自覚をもたせる。

今後の改善策

- ・引き続き留学生の入学規定を全教員に徹底周知し、受入れ体制を整えること。
- ・中学、高校のインターンシップを積極的に受け入れること。